

## プレゼンテーションⅣ「復活節－入信の秘跡直後の導き」

石井祥裕

### 1. 現行の復活節の概要（確認）

- ①「歓喜に満ちて祝われる大いなる50日」 （『典礼暦年と典礼暦に関する一般原則』22-26）  
復活の主日－復活の八日間－第2-6主日－主の昇天（主日＝日本）－聖霊降臨
- ②朗読配分の特徴 （『朗読聖書の緒言』99-102）
  - ・第1朗読 使徒言行録「初代教会の生活から始まって、あかしと発展の跡をたどる」
  - ・第2朗読（第2-6主日 A-1 ペトロ； B-1 ヨハネ； C-黙示録）  
「この季節独特の喜ばしい信仰と揺るぎない希望の精神に調和」  
（主の昇天、聖霊降臨、各関連箇所）
  - ・福音朗読（第3主日まで復活の主の現れ； 第4主日－良い牧者  
第5-6主日－最後の晩餐の説教； 昇天－3福音書； 聖霊降臨－ヨハネ）  
全体としてヨハネ福音書が多いこと
- ③「入信の秘跡直後の導き」、「新信者のためのミサ」  
（『成人のキリスト教入信式』緒言38-41、56、156-159）
- ④「過越の季節」 四旬節との一体性

### 2. 歴史

- ①概観
- ②古代教会の「入信直後の導き」（ミュスタゴギア）の姿  
エルサレムのキュリロス、アンブロシウスより
- ③20世紀における過越秘義への回帰

### 3. 実践課題

- ①ミュスタゴギアの射程（新信者と全信者へ）
- ②共同体に関するテーマの重要性（宣教・司牧・一致・刷新など）
- ③堅信の秘跡の位置、堅信・初聖体の準備 など
- ④教会暦的関連
  - 第4主日「世界召命祈願日」（1964・）
  - 第6主日（日本）「世界広報の日」（1966・）
  - 第2主日「神のいつくしみの主日」（2001・；日本2003・）
- ⑤「聖母月」の信心 その他

◎公会議前の Missale Romanum 1962 による復活の主日後のミサの聖書朗読

## [復活の八日間]

復活の主日	i	1 コリ 5:7-8	マルコ 16:1-7
復活の月曜日	i	使徒 10:37-43	ルカ 24:13-35
復活の火曜日	i	使徒 13:16, 26-33	ルカ 24:36-47
復活の水曜日	i	使徒 3:13-15 17-19	ヨハネ 21:1-14
復活の木曜日	i	使徒 8:26-40	ヨハネ 20:11-18
復活の金曜日	i	1ペト 3:18-22	マタイ 28:16-20
白衣の土曜日	i	1ペト 2:1-10	ヨハネ 20:1-9
白衣の主日	i	1ヨハ 5:4-10	ヨハネ 20:19-31

## [復活後 post pascha ]

復活後第2主日	ii	1ペト 2:21-25	ヨハネ 10:11-16
復活後第3主日	ii	1ペト 2:11-19	ヨハネ 16:16-22
復活後第4主日	ii	ヤコ 1:17-21	ヨハネ 16:5-14
復活後第5主日	ii	ヤコ 1:22-27	ヨハネ 16:23-30
主の昇天 前晩	ii	ヤコ 4:7-13	ヨハネ 17:1-11
主の昇天	i	使徒 1:1-11	マルコ 16:14-20
昇天後の主日	ii	1ペト 4:7-11	ヨハネ 15:26-27 16:1-4

聖霊降臨の前晩	i	使徒 19:1-8	ヨハネ 14:15-21
聖霊降臨の主日	i	使徒 2:1-11	ヨハネ 14:23-31
聖霊降臨の月曜日	i	使徒 10:34, 42-48	ヨハネ 3:16-21
聖霊降臨の火曜日	i	使徒 8:14-17	ヨハネ 10:1-10
聖霊降臨の水曜日	i	(聖霊降臨節の四季の斎日) 使徒 2:14-21; 使徒5:12-16; ヨハネ 6:44-52	
聖霊降臨の木曜日	i	使徒 8:5-8	ルカ 9:1-6
聖霊降臨の金曜日	i	(聖霊降臨節の四季の斎日) ヨエル 2:23-24, 26-27	
聖霊降臨の土曜日	i	(聖霊降臨節の四季の斎日) ヨエル 2:28-32 レビ 23:9-11, 15-17, 21 申命記 26:1-11 レビ 26:3-12 ダニ 3:47-51 ロマ 5:1-5 ルカ4:38-44	

## [聖霊降臨後の年間主日]

三位一体の祝日	i	ロマ 11:33-36	マタイ 28:18-20
キリストの聖体の祝日	i	(三位一体の祝日後の木曜日) 1 コリ 11:23-29 ヨハ 6:56-59	
聖霊降臨後の第3主日	ii	略	
イエスの聖心の祝日	i	(聖霊降臨後の第2主日後の金曜日) 略	
聖霊降臨後の第3主日	ii	略	
以下			

第5表 復活節の聖書朗読

	テ ー マ	第一朗読 (使徒行録)	使 徒 書	福 音 書
主の復活	復活した キリスト	[ABC年] 使10・34a 37-43 わたしたちはかれと ともに飲食した	[ABC年] コロサイ3・1-4 上のことを求めよ (または) I コリント5・6b-8 新しいねり粉	[ABC年] ヨハネ20・1-9 イエズスの復活 (当日の晩) ルカ24・13-35 パンを裂いた時
復活節 第二主日	復活した キリスト を信じる 共同体	[A年] 使2・42-47 信者の共同体 [B年] 使4・32-35 一つの心 [C年] 使5・12-16 使徒たちの奇跡	[A年] I ペトロ1・3-9 わたしたちの誕生 [B年] I ヨハネ5・1-6 わたしたちの勝利 [C年] 黙1・9-13 17-19 天上のキリストの姿	[ABC年] ヨハネ20・19-31 8日目の夕方の出現
第三主日	キリスト が弟子に 現れる	[A年] 使2・14 22-28 ペトロの説教 [B年] 使3・13-15 17-19 ペトロの説教 [C年] 使5・27b-32 40b-41 大祭司の前の使徒たち	[A年] I ペトロ1・17-21 小羊の血によって [B年] I ヨハネ2・1-5a 罪のあがない [C年] 黙5・11-14 屠られた小羊	[A年] ルカ24・13-35 パンを裂いた時… [B年] ルカ24・35-48 キリストの出現 [C年] ヨハネ21・1-14 不思議な大漁
第四主日	よい牧者	[A年] 使2・14a 36-41 ペトロの宣教 [B年] 使4・8-12 キリストは救い [C年] 使13・14 43-52 アンチオキアのパウロ	[A年] I ペトロ2・20b-25 牧者に立ち帰る [B年] I ヨハネ3・1-2 神の子とされる [C年] 黙7・9 14b-17 白く長い衣を着た者たち	[A年] ヨハネ10・1-10 羊の門キリスト [B年] ヨハネ10・11-18 羊のためにかける [C年] ヨハネ10・27-30 羊は声を聞き分ける
第五主日	奉仕者	[A年] 使6・1-7 助祭の選任 [B年] 使9・26-31 パウロが紹介される [C年] 使14・21-27 アンチオキアのパウロ	[A年] I ペトロ2・4-9 王的祭司職 [B年] I ヨハネ3・18-24 神にとどまる [C年] 黙21・1-5a 新しい天と地	[A年] ヨハネ14・1-12 道、真理、生命 [B年] ヨハネ15・1-8 キリストにとどまる [C年] ヨハネ13・31-33a 34-35 新しいおきて
第六主日	共同体の 発展	[A年] 使8・5-8 14-17 按手と聖霊 [B年] 使10・25-26 34-35 44-48も聖霊が下る [C年] 使15・1-2, 22-29 エルサレム使徒会議	[A年] I ペトロ3・15-18 わたしたちの希望 [B年] I ヨハネ4・7-10 み子を遣わされた [C年] 黙21・10-14 22-23 新しいエルサレム	[A年] ヨハネ14・15-21 聖霊の派遣の約束 [B年] ヨハネ15・9-17 友のために命を [C年] ヨハネ14・23-29 弁護者である聖霊
主の昇天	昇 天	[ABC年] 使1・1-11 昇天の記事	[ABC年] エフェソ1・17-23 キリストは父の右に すわられる	[A年] マタイ28・16-20 一切の権限 [B年] マルコ16・15-20 天にあげられた [C年] ルカ24・46-53 天に上げられる
聖霊降臨	聖霊降臨	[ABC年] 使2・1-11 一同は聖霊に満たさ れた	[ABC年] I コリント12・3b-7 12-13 洗礼によって皆一の 霊を受けた	[ABC年] ヨハネ20・19-23 聖霊を受けなさい

## 古代教会の秘義教話（ミュスタゴギア）資料

## エルサレムのキュリロス「秘義教話」

\* 講話の順序と前提となる聖書朗読箇所

第1講話	洗礼者の儀式（洗礼堂控室での儀式）	朗読	1ペトロ5:8-14
第2講話	洗礼の儀式（洗礼堂内での儀式）	朗読	ロマ6:3-14
第3講話	聖なる塗油	朗読	1ヨハ 2:20-28
第4講話	キリストの体と血（エウカステイア）	朗読	1コリ11:23 以下
第5講話	エウカリスティアの祭儀	朗読	1ペト 2:1 以下

## 第1講話の序

「教会の真正にして望まれる子たちよ、霊的で天上的な秘義についてあなたがたにお話しすることをほんとうに前々から望んでいました。しかし、百聞は一見にしかずということは私も承知しておりますので、今まで待っていたのです。この夕べからは、語られることどもにあなたがたはすでに十分心がひきつけられていますので、そのあなたがたを楽園といういっそう輝かしくいっそう香り高い牧場へと導いていこうと思います。そしてまた、とりわけともいっそう神秘的な秘義に、神秘的で生命を与える洗礼に、あなたがたは値するようになったのです。あとはいまや完全な教えの食卓の用意をしなければならないのですが、それら〔の教え〕をあなたがたに正確にお伝えしましょう。それはあなたがたが、洗礼の夜に自分たちに起こったことどもの意味を知るためなのです。」

## 第2講話の序

「日ごとの秘義教話と新しい教えは、新しく行われたことの秘義を明らかにしており、あなたがたにとって有益です。とりわけ、古いものから新しいものへと新たにされたあなたがたにとって有益です。ですから、昨日の秘義教話の続きがあなたがたに与えられなければなりません。それは、洗礼堂の中であなたがたのしたことが何の象徴であったのかを知るためです。」

## 第4講話の序

「このパウロの教え〔朗読部分〕は、あなたがたが気づかずにキリストと一つの身体となり一つの血となった神秘的秘義について、あなた方が確信するのに十分でしょう。……」

## 第5講話の結び

「以上の〔典礼〕伝統を汚すことなく保ち、己れが躓くことのないように守りきって下さい。交わりから遠ざかってはならず、罪の汚れによってこの聖なる霊的秘義から離れてはいけません。〔1テサ5:23 引用〕そして、そのキリストに代々限りなく栄光がありますように。アーメン」

(中世思想原典集成2「盛期ギリシア教父」所収訳より)

## アンブロシウス 『デ・サクラメンティス』（秘跡についての講話）

## 第1講話の序

「1.1 あなたがたが受けたサクラメンタ〔秘跡の諸儀式〕についての講話を始めます。これを受ける前に説明をするのは、ふさわしいことではありません。キリスト信者にとっては、信仰が第一のものだからです。それゆえローマでは、洗礼を受けた者が信者と呼ばれます。また、わたしたちの父祖アブラハムは信仰によって義とされたのであり、業によってではありません〔ローマ4:1-22参照〕。さて、あなたがたは洗礼を受けたのであり、信仰をもっているのです。それ以外のように考えるとすればわたしは不正を行うことになります。なぜなら、もし、キリストがあなたをご自分の恩恵にふさわしいと判断なさらないければ、あなたはこの〔洗礼の〕恩恵へと招かれていなかったでしょうから。」

(試訳)

○. カーゼル『秘儀と秘義』「教会の一年におけるキリストの秘義」より

◎典礼暦年が歴史的な出来事や発展を祝うとき、教会自身のために祝うのではなく、その中に隠されている永遠の意味のために祝う。その内容は、人間に対する神の偉大な行為であり、人間を、時間性の狭さから、永遠性の広さへと導こうとしているキリストのあがないのわざなのである。(116頁)

◎典礼暦年がいわばキリストの秘義の展開を模擬しているとしても、歴史劇を演じようとしているのではなく、神の啓示自身のうちにあらかじめ造られていた神への階段を昇るわれわれを助けようとするのである。救いの「秘義全体」は、教会の眼前に、そしてひとりひとりのキリスト者の眼前に常に現存している。

具体的に言うと、待降節を祝うとき、けっしてあがなわれていない人々の状況にもどって祝うのではなく、すでに主が現われたことを確信して祝う。…また四旬節を祝うとき、けっしてキリストの血によってまだ洗われていない者として祝うのではなく、十字架の印章をすでに身に帯び、復活が一層明らかになるように、一層キリストの死のさまにひとしくなろうとする者として祝うのである。主の地上の十字架の道をたどるときも、霊の目にうつるのはやはり栄光化した主（キリオス）であり、われわれが「父の右に座したもう主よ、われらをあわれみたまえ」と呼びかける主である。(116-117頁)

◎したがって、典礼暦年全体は単一の秘義である。この秘義の頂点は、最高の秘義とも言うべき「過越秘義」であって、これは毎日曜日ある意味で詳細に現在化される。つまり、十字架上の奉献を頂点とするあがないと、復活に由来する教会の栄光化とが、ここで神秘的に挙行され、信ずる者にまで到達する。(117頁)

◎神であり人であるキリストの救いの行為が、ことばと儀式の両者によって現存することから、一つの重要な点が明らかになる。教会はすでにキリストの秘義を完全に有しているにもかかわらず、特定の祝日には、その日に強調されている秘義について、「きょう」と歌うことができる。たとえば、降誕祭には、「きょうキリストが生まれた」、公現祭には「きょう教会は天の花婿と結ばれる」、復活祭は「きょうこそ神の造られた日」、聖霊降臨祭には「きょう聖霊が火の形をして弟子たちに現われる」と歌う。(119頁)

◎典礼暦年の一年は、全体として、神の永遠の救いの計画の描写であり、キリストの秘義を包含している。しかし、彼岸でのようにすべてを一瞬のうちに見通すことのできない〔地上の〕目にとっては、このような一年の循環のうちに秘義が展開していく。一年が神の現存を内に秘めているように、一日一日もこの循環の中で、かつてその日を聖化した救いの出来事を再び取り上げる。

物質による象徴が、その不変性によって秘義の同一性を表わしている一方、ことばは軽く動くものとして、その充溢と多様性を示し、それを説明しそれを現存させる。だから、日々のミサにおいては、もちろんあがないの秘義全体を祝うのであるが、〔朗読される〕神のことばから見れば、降誕祭と公現祭には主の受肉が、復活祭には主の受難と高挙が、われわれにとって現存するものとなる。(119-120頁)

◎教会に一体化された人々が、母なる教会とともに、この神秘的な一年を真に秘義として生きるならば、一年の典礼暦に含まれているものすべてが現実となり、エリサベツがマリアに言ったあのことばが実現するのである。「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いなことでしょう」(ルカ1・45)。(120頁)

(小柳義夫訳 みすず書房 訳語一部変更)